

「日々の理科」(第 4028 号) 2025, -8, 17

「北海道一周鉄道旅行 (30)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

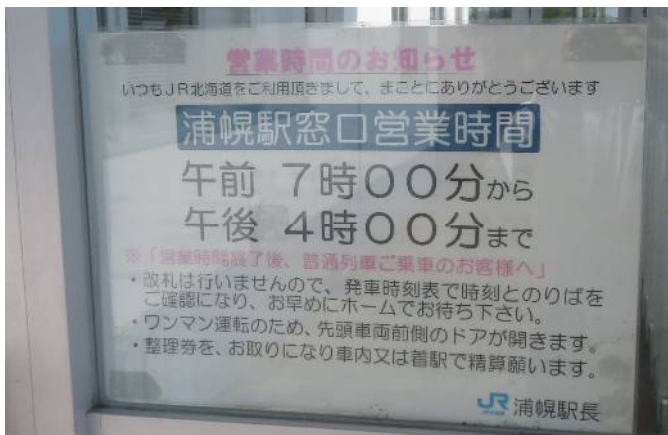
6	22 後回行	6	48 前回行
7	16 札幌方面 2号 札幌行	7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	22 札幌行
12	04 札幌行	12	
13		13	40 札幌行
14		14	
15	46 札幌行	15	
16		16	
17	32 札幌行	17	00 札幌行
18	33 札幌行	18	19 札幌行
19		19	30 札幌行
20		20	51 札幌方面 2号 札幌行

浦幌駅の時刻表を見ると、列車は間車で5時間も停車列車がない時間帯もあります。停車する特急は、朝の上り札幌行が1本、夜の下り釧路行が1本だけです。私が降りた特急は、まさにその貴重な特急でした。

浦幌駅は、こじんまりしたきれいな駅です。しかし、特急が着いたというのに、バスもタクシーも迎えの車も、イノシシもコオロギもいませんでした。



こんな駅で降りたのは、一日一本の停車特急に敬意を払ったこともあります。思い出のある街だったからです。大学時代に、友人7人とワゴン車で北海道一周旅行をしました。その時、浦幌市街地で道に迷い、この駅の駅員さんに道を聞いたのです。駅前の道はもっと狭かった記憶ですが、すごく広々としていました。



浦幌駅は根室本線では珍しい有人駅ですが、営業時間は短いです。朝は7時からと比較的早いのは、札幌行の特急の乗客に特急券を発売する為でしょう。しかしこの日、特急に乘った人はいませんでした。



しかし、このホーロー製の駅名板には、確かに見覚えがあります。確か、この前で写真を撮ったのです。



浦幌駅から札幌方面の「最終の特急」はもう行って

しまったので、今度は普通列車です。この列車も1両できれいな車内でしたが、誰も乗っていませんでした。あ、運転士さんは乗っていました。恐らく。



「十弗駅」(とおふつえき)に停車しました。この駅も一日の乗降客が数名で、存続が危ぶまれています。



「池田駅」に到着しました。久々の大きな駅で、ここでたくさんの高校生や地元の人が乗ってきて、車内は満席になりました。旅行先では列車は空いていたほうが有難いのですが、どうもローカル線ではたくさん人が乗っていたほうが嬉しくなります。

池田駅は、かつて「池北線(ちほくせん)」その後の「ふるさと銀河線」の分岐駅でした。内陸を通過して北見方面に直接行けましたが、廃線になっています。



列車はいつか高架線に入り、帯広の街が見えてきました。遠くには日高山脈が霞んで見えました。



帯広駅に着きました。淋しい駅ばかり見てきたので、高架でホームも多い帯広駅は大ターミナル並みです。



北海道の他の大都市と同じように、帯広の街も計画的に造られたので、街路は南北・東西に整然と並んでいます。地図を見ると「真北」ではなく、少し西に傾いた「磁北」を基準に造られているようです。



(国土地理院地形図)

不思議なことに、駅前の大通りだけは鉄道線路にほぼ直角に通っています。そもそも、鉄道線路が南北・東西を無視して敷かれたのも不思議です。こういうことはとても気になるので、調べてみようと思います。